

# 安足地域水稲技術情報 No.5

令和4(2022)年8月24日  
安足農業振興事務所

## 作業の重要ポイント

- ① 水が不足しないように、間断かん水を継続しましょう。
- ② 高品質米生産のため、落水は出穂後30日以降にしましょう。

### 1 水稲生育診断ほ場(佐野市石塚町)の生育調査結果(参考)

6月16日移植のとちぎの星では、8月19日に収穫期を迎えました。

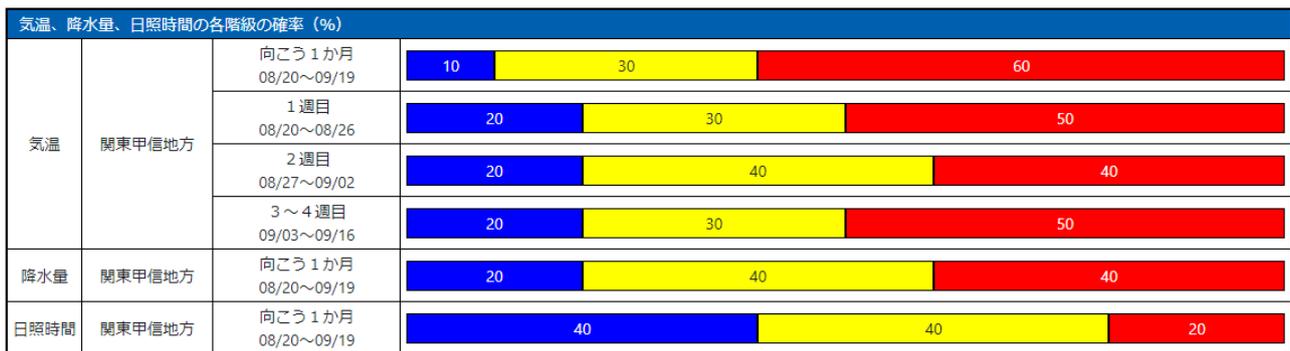
表 水稲生育診断ほの生育調査結果

品種：とちぎの星 移植日：6月16日	8月19日調査
葉齢	12.7
葉色(葉色板)	3.6



写真1 水稲生育診断ほ場の様子

### 2 今後の気象



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

気象庁の1ヶ月予報(8月18日発表)によると、向こう1ヶ月の平均気温は高い、降水量は平年並または多い、日照時間は平年並みまたは少ないという予想が出されています。

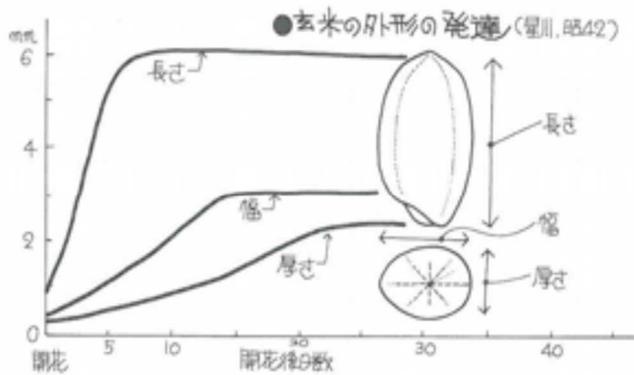
### 3 これからの作業のポイント

#### (1) 間断かん水を継続しましょう。

出穂期は最も水を必要とする時期です。不足しないようにこまめな間断かん水を行いましょう。この時期に水が不足すると、受精や稔実に障害が起き、粳数が減少してしまいます。

#### (2) 早期落水は厳禁です。

早期の落水は、乳白米や胴割米を増加させ、食味・品質が低下してしまいます。登熟を高めるため、間断かん水を継続し、落水時期は出穂後 30 日以降としましょう。収穫作業優先の早期落水は厳禁です。



出典:「安心イネづくり」(農文協)

玄米の大きさが決まるのは、出穂後約 4 週間かかります。食味は、タンパク質含有率だけでなく、登熟歩合も関係しています。

高品質米生産のため、出穂後 30 日間は落水せず、間断かん水で、ゆっくり登熟させましょう！



#### (3) 斑点米カメムシ類対策

斑点米カメムシ類の発生量が増えています。特に、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシの発生量が多く、アカヒゲホソミドリカスミカメ (写真 2) の発生も増加しています。

穂揃期に斑点米カメムシ類が水田内で見られる場合は、薬剤を散布しましょう。その後も斑点米カメムシ類が見られる場合は、7~10 日間隔で追加散布をしましょう。



写真 2 栃木県の主要な斑点米カメムシ類  
(左からクモヘリカメムシ・ホソハリカメムシ・  
アカヒゲホソミドリカスミカメ)

#### (4) いもち病対策

農業環境指導センターの発表する予察情報に注意するとともに、ほ場をよく見回り、発病が見られた場合は、早急に予防・治療効果のある薬剤を散布しましょう。

7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

夏の農作業で、以下のことに気をつけましょう。



- 日中の気温の高い時間帯の作業は控えましょう。
- こまめな休息、水分補給を行いましょよう。
- 体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょう。

問い合わせ先

安定農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0283-23-1431  
ホームページ <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>